

令和4年度 高知県栄養士会生涯教育実務研修会アンケート集計

令和4年11月12日

食べる機能の発達、咀嚼について

高知県言語聴覚士会 言語聴覚士 下元 史子 氏

参加者 7 名

NO.	1.所属事業部	2.年齢	3.習得した事	4.今後仕事に活かせるか	5.講師の希望	研修項目	6.質問・要望など	7. 回答
1	福祉	50歳代	介助食べの大切さ。 機能を確保することが重要なこと。	食形態の評価			嚥下の評価の難しさを再確認しました。 成長に応じた嚥下機能があることを初めて知りました。（乳期嚥下と成人嚥下）	
2	医療	60歳代	咀嚼の基礎を学ぶことが出来ました。				準備他ご苦労さまでした。	
3	公衆衛生	40歳代	市町村で乳幼児健診で離乳食指導しています。 介助食べの必要性や、口唇開鎖の大切さがよくわかりました。	特に離乳食指導に生かしていきたいです。				
4	福祉	50歳代	日頃あたり前にやっている咀嚼・嚥下の機能をあらためて体感することの大切さ。 そしてその機能が自然に出来ない子への支援のポイントを正確に知ることの大切さ。	ミールラウンドをした際に口びるの動きをよく見守るようにしたい 機能の発達と退化について学びを深めるきっかけとしたい。			平野レミさんのように明るくテンポよく講義いただけで楽しく学ぶことが多くありました。 本当にありがとうございました。	
5	学校健康	60歳代以上	咀嚼と嚥下にはベロの動きが大切であるということ。 食べるのも運動で感覚を入力しているから運動が出てくる。 食べることの感触を感じさせ、食べる感覚を入力することが大切ということ。					
6	学校健康	60歳代以上	食べる時の口の中のしくみ、くちびる、ベロ、咽頭などの機能を体験的に学ぶことができた。 適切な時期の介助食べをすることが大切。					

7	学校健康	50歳代	<p>自分の口の中の機能をものすごく意識した。何気なく噛んでいることが、体の機能の連動であることに感動した。「よく噛もう」の言葉がけだけでは不十分な場合があることがわかった。噛むことを獲得しているかを確認したうえで、その子に合った支援をすることが食べる喜びにつながることを学ぶことができた。</p>	<p>学校栄養士仲間で「噛む」ことを学びあい、子どもたちにその素晴らしさを実感してもらえるような支援の在り方を目指したい。教職員に「噛む」ことの根本を問題提起できればよいと思う。</p>			<p>下元先生には今後もいろいろと教わりたいと願う。</p>	
---	------	------	---	---	--	--	--------------------------------	--